Ⅰ

１　茅ヶ崎の概要

沿　　革

茅ヶ崎の歴史は古く、市北部の相模原台地南端に位置する小出地区から先土器時代の遺物が発見されたことで明らかなようにこの時代にさかのぼる。縄文時代・弥生時代と生活の場は台地から低地（砂丘）に向かって広がり、その後次第に集落が発展していった。近世には 23 の村があり、それらの村々は、明治元年(1868 年)に神奈川県の所管となった。明治 22 年(1889 年)の市制・町村制の実施によって２３ヶ村は整理統合され、茅ヶ崎、鶴嶺、松林、小出の 4 ヶ村が生まれた。

当時の茅ヶ崎は湘南の一農漁村であったが、明治 31 年（1898 年）に現在のＪＲ茅ヶ崎駅が開業してからは、別荘の開発や結核療養施設南湖院の開院により、その名を広く世間に知られるようになった。

その後、明治 41 年（1908 年）に小出村をのぞく 3 ヶ村が合併して茅ヶ崎町となり、第二次世界大戦後の昭和 22 年（1947 年）10 月 1 日（人口 43,315 人）には神奈川県下８番目の市として単独市制を施行した。さらに昭和 30 年（1955 年）4 月 5 日には、高座郡小出村のうち堤・芹沢・下寺尾・行谷を分村合併して、現在の市域が形成された。

昭和 53 年（1978 年）に策定した総合計画では、「豊かな自然と人間環境を創造する市民のまち　茅ヶ崎」を、平成 3 年（1991 年）度施行の新総合計画では、「自然と人がふれあう心豊かな快適都市　茅ヶ崎」を将来都市像としてまちづくりを進めてきた。そして、平成 23 年（2011 年）4 月から、「新しい公共の形成」「行政経営の展開」の２つの新しい基軸による行政運営と「海と太陽とみどりの中で　ひとが輝き　まちが輝く湘南・茅ヶ崎」を将来像とした新たな総合計画が施行された。

平成 31 年（2019 年）4 月 1 日現在の人口は 241,723 人、世帯数 102,286 世帯である。

－位 置 と 地 勢－

神奈川県の中南部、東経 139 度 24 分、北緯 35 度 20 分に位置し、東京から西に 50 ㎞あまり、東は藤沢市、西は相模川をはさんで平塚市、南は海岸線約 6 ㎞に及ぶ相模湾、そして北は寒川町と接している。面積は 35.76km^2、東西 6.94 ㎞、南北 7.60 ㎞、周囲 30.46 ㎞に及んでいる。

市域は海岸線から北部に広がっており、平野となだらかな丘陵となっている。海岸は、四季を問わず市民の憩いの場となっており、東に江の島、西に伊豆半島・富士・箱根の山なみを望むことができ、晴れた日は遠く伊豆の大島を望むことのできる景勝地である。

茅ヶ崎市：北緯 35 度 20 分・東経 139 度 24 分